

文化財News速報

区の有形文化財(建造物)に登録された 荒川遊園煉瓦塀

荒川ふるさと 文化館だより

荒川区教育委員会
荒川ふるさと文化館
荒川区南千住6-63-1
TEL 03 (3807) 9234
登録 (30) 0056号-02



写真1 南端の門柱付近

写真2 北側から見た煉瓦塀
構造調査の様子 (平成 31 年 3 月 6 日撮影)

荒川遊園の煉瓦塀 地元の方々にはお馴染みの風景ですが、西尾久六丁目の荒川遊園の東側と南側には煉瓦塀が続いています。今回、その一部である旧小台橋小学校跡地(西尾久六丁目20番、分布図内矢印の範囲)の煉瓦塀が有形文化財として登録されました。南端に門柱があり(写真1)、北側に向かって塀が約42mにわたり連なっています(写真2)。

煉瓦塀の歴史と機能 この一帯は元々、広岡幾次郎が創設した煉瓦工場でしたが、大正11年(一九二二)、跡地に荒川遊園が開園されました。明治35年(一九〇二)生まれの石神寅松氏の手記に、遊園開園の頃に木材の塀を煉瓦塀に改修したとあり、現存する煉瓦塀はその時の建造と考えられています。戦後、遊園周辺部が宅地化されましたが、宅地と道路の境界や、整地のための土留めとしても利用されることで、多くの煉瓦塀は解体されることなく残されてきました。この連続する煉瓦塀は平成23年度、荒川区景観計画の中で「あらかわ遊園憩いの空間と、歴史を感じる街並みが共存した景観」を構成する景観資源と位置付けられ、今では区を代表する景観の一つとして知られています。

煉瓦塀の保存と整備 大正12年の関東大震災、平成23年の東日本大震災を乗り越えた荒川遊園の煉瓦塀ですが、今回の文化財登録を受け、煉瓦塀の強度や地盤の土壌などを調べる構造調査を実施しました(写真2)。これをもとに、平成31年度には文化財補修工事を行います。また、より多くの区内外の人がびとに親しんでもらうため、門柱付近には見学スポットも整備予定です。これからも地域の歴史を物語る建造物として、また固有の景観として、煉瓦塀を大切に守っていくため、各種事業を予定しております。(澤田善明)



図 荒川遊園周辺に現存する煉瓦塀の分布図

古写真の中の歴史世界④ 荒川の国旗掲揚台



写真1 振興会拾周年記念写真 (石井孝治氏蔵)

前である。正式には「商工振興会」といった現在の荒川二丁目あたりの町内会で、昭和15年(一九四〇)に三河島町八丁目町会に統合されるまで存在した。

左に目をやると、橋の欄干のような白い構造物が見え、銘板が装着されている。少し見づらいが銘板には、「皇太子御降誕記念」とつづられている。左手前には日本酒と思われる瓶と杯、三方が見える。左上には柱のようなものが立っている。

ところでこの構造物だが、かつての学芸員が撮影していた。撮影場所は同じ都電荒川二丁目停留所へ向かう路地で、銘板には「皇太子御降誕記念 正三位男爵若王子文健印(藤原文健)」とある(写真2)。なお、若王子文健は、貴族院議員の男爵であった。

さらに背面を撮影した写真を見ると、「商工振興会拾周年記念昭和十一年十一月三日建之」という別の銘板が取り付けられている(写真3)。残念ながら古写真の柱は失われているが、背面に柱が建てられそうなくほみとおさえの鉄の金具が二枚ついている。これは形状から判断するに国旗掲揚台である。つまり、商工振興会十周年記念および明仁皇太子殿下の誕生を祝って、昭和11年

11月3日につくられた国旗掲揚台と考えられる。

ちなみに皇太子の誕生を記念し、全国には様々な施設が作られている。「皇太子殿下御降誕施調」(昭和11年刊)にはその一覧が載っている。公共施設・公園・病院等が大半だが、その中に国旗掲揚台も含まれ、全国の主に学校に作られたことが分かる。残念ながら本稿の国旗掲揚台は掲載されていないが、町内会など地域団体により掲揚台が設置された例も多い。

荒川区内の国旗掲揚台は他に、素盞雄神社や諏方神社、尾久八幡神社内等の例を確認できる。しかし写真のような表面が石造り風コンクリート(人造石洗出し仕上げ)で、青銅の銘板がついたタイプではない。その意味で振興会の掲揚台は、関東大震災後に普及し、一般に認知されつつあったコンクリート構造物としても貴重であった。

なお、この国旗掲揚台の銘板プレート2枚は、荒川二丁目に存在した町会の記録を伝えるものとして、荒川ふるさと文化館で保管されている。

〈高柳吟音〉

平成30年秋、ゆいの森通りの道路拡張のため、荒川二丁目付近にあった、峡田安心・安全ステーションが解体された。現在この場所は更地となっているが、脇の都電荒川二丁目停留所へ向かう路地は残っている。先日、この路地を撮影した戦前の古写真があることを近所にお住まいの方から教えて頂いた(写真1)。

まず目に入ってくるのは、コート姿の男性たちだ。右端の男性は左腕に腕章をつけており、「振興会」の文字がある。中央奥には「振興会拾周年」と書かれた白い旗がある。同じ腕章を数名が装着していることを考えると、どうやら「振興会」と呼ばれる団体の十周年記念の集合写真のようだ。

この「振興会」という団体は、商業団体や商店街団体の名前と思いきや、町内会の名



写真2 国旗掲揚台



写真3 背面

あらかわ
タイムトンネルズ 28

質屋さんの大黒さまと恵比寿さま

— 祀られた千住大橋杭 —

五穀豊穡、商売繁盛、家内安全。幸せを願わずにいられないのは、人の世の常である。今回は、とある商家の祈りの姿から、南千住のちよつと昔を垣間見てみよう。

南千住の石井質店 石井質店はコッ通り商店街にあった。当主は代々「伊勢家平兵衛」を名乗り、江戸時代に創業。古着屋だったが、明治2年（一八六九）から平成21年までの140年間以上もの間、6代にわたり地域の質店として営業していた。現在も、店の前の高い塀と蔵が、営業時の様子を伝えている。この質店で昭和3年（一九二八）か



写真1 大黒天像・恵比寿像
大きさは、高さ51×横40×奥行40mmの手のひらサイズ。やさしい目元とふくよかな顔が印象的である。

ら大切にされてきた福の神がいる。
質屋さんの福の神 その福の神とは、商売繁盛の神である大黒天と恵比寿の木像である（写真1）。当館の平成19年の企画展「千住で一番 江戸で一番 千住大橋」で展示され、同30年12月に寄贈された。
6代目の石井一男氏の妻・浩子氏によると、質店では一人娘が生まれた場合は婿をとり、跡取りである女性たちが客との取引を担った。そんな4代目のトヨ氏、5代目の好子氏が昭和3年に2体を質店へ迎え入れた。その2代の間に、質店は大正12年（一九二三）の関東大震災で被災し復興するも、昭和20年の東京大空襲により蔵以外が焼失。困難を乗り越え、同27年に6代目が家業を継いで店を再開した。その際、2体は専用の木箱に入り正面の蓋を開けた状態で、接客をする一階の神棚で御札等とともに祀られた。浩子氏が嫁いだ昭和32年には、姑の好子氏が毎月一日・一五日には赤飯を供えて祀っていたという。姑は2体がその来歴から貴重であること、商売の神様で大切であることを、嫁に教えた。そして昭和



写真2 大黒天像・恵比寿像の箱書
文禄3年に千住大橋が架設されたこと、昭和3年春に富岡芳堂がこれを作ったことなどが墨書されている。

50年頃には、店で取引を手伝っていた浩子氏も、姑と同じように2体を祀るようになった。震災・戦災が続いた姑たちが、する思いで2体を祀ったのではないかと浩子氏は考えている。
では、何故「昭和3年」にこの2体は石井質店へやって来たのか？ 謎の鍵は、福の神の「もとの姿」が握っている。
「祀られた」千住大橋杭 福の神が質屋へ来る前年、昭和2年とは、徳川家康により375年前に架けられた千住大橋が鉄橋化した年である。橋杭は、解体されたのちに花器台や火鉢、福祿寿などに姿を変えた。すなわち、この福の神たちも千住大橋の橋杭が木彫家・富岡芳堂によって変身したものだ。好子氏たちが重視したその来歴は、箱書（写真2）と2体の底面（写真3）を見れば明らかである。
商家の福の神が、嫡子に限らず家業の経営に携わった女性たちに祀られてきた点は、大変興味深い。しかし、尊ばれた理由のうち一つが、元千住大橋の橋杭であったということも、忘れることのできない要素なのである。
〈岡田伊代〉



写真3 大黒天像の底面
「旧千住大橋本杭材」の彫り込みと、「芳堂」の焼印が見える。恵比寿像の底面も同様である。

職 人 ことば 16

日暮里生まれの銅像Ⅱ
— 鑄造職人の家に残る記念写真 —



写真 御木本幸吉像 (菓子十平氏工場前(現在地))

今回、その息子の菓子満さん(昭和12年(一九三七)生まれ。荒川区指定無形文化財保持者・現代の名工)にお話しを聞いた。菓子さんの父・十平氏は、明治30年(一八九七)、富山県生まれ。上京後に鑄造の技術を修得し、昭和4年、現在地付近の西日暮里六丁目36に「菓子美術鑄金研究所」を開業した。十平氏は銅像が完成すると、職人や関係者で1枚、さらに家族と親族で1枚、と記念写真を撮った。そのためわざわざ富山から呼び寄せた親族もいた。

全員集合でハイポーズ。ここに1枚の写真がある。大きな銅像とともに写っている人びと。左にネクタイ姿で写るのがこの大きな銅像を鑄造した菓子十平氏である。西日暮里六丁目

No.	作品名及びモチーフ	時代	所在地等	彫刻(原型等)
1	「陸軍電信兵」	昭和11年	東京藝術大学美術館(注)	一色五郎
2	「脇差をさす人物(男性)」	戦前	-	一色五郎
3	「小池仁郎翁之像」	昭和14年頃か	-	-
4	「西村庄平精進像」	昭和11年	田園調布学園	長谷川栄作
5	「和氣清麻呂像」	昭和15年2月	皇居東御苑・大手濠緑地内	佐藤清蔵(朝山)
6	「伊藤博文像」	戦前	-	-
7	「藤田東湖像」	昭和16年	幕末と明治の博物館敷地内(茨城県)	桜井晩華
8	「平和塔」	昭和24年	-	-
9	「板垣退助像」	昭和25年	岐阜公園内(岐阜県)	柴田佳石
10	「御木本幸吉像」	昭和28年	ミキモト真珠島(三重県)	北村西望

という。当時、十平氏は弟や親族に声をかけ、仕上師となるよう勧め、共に仕事をしてきた。鑄造は鑄物師と仕上師とが分かれていて、この頃は仕上げだけの仕事もあり、近所には弟子や仕上師が住んでいた。弟子のうち、一番弟子職人は出征し、二番弟子の職人は

表 菓子十平氏の作例
*菓子満氏所蔵古写真より作成。なお作品名が不明の場合、〔 〕内にモチーフを記した
(注) 所蔵先であり、非公開

戦後、北区で開業した。菓子さんは四番弟子あたりまで記憶しているそうだ。日暮里は隅田川が近く、鑄型に使う砂などの原材料が入り易いことから、鑄物業を営む人びとが集まっており、十平氏もここに開業したらしい。なお、表の作例に見える和氣清麻呂像(表No.5)は、近隣の鑄物職人たちと作り上げた作品である。こうした大型の美術鑄造は、時に周辺の工場と協力しあって鑄造することもあった。

御木本幸吉像 さて、写真の銅像は、戦後に作られたミキモトパールの創始者御木本幸吉の像(写真・表No.10)である。この像が完成したとき菓子さんは高校生だったが、工場で「真土つき」という作業を二週間ひたすら行っていたという。鑄込んだ型(真土型)をばらした後、その焼けた土の塊を金属が付いた杵でついて粉状にする作業だ。鑄造の仕事は、通常は彫刻などの原型が先にあって頼まれるが、この銅像の場合、先に菓子家に仕事の依頼がきたことが印象的だったそうだ。なお、原型は菓子家が、長崎平和祈念像で知られる彫刻家北村西望に依頼し制作された。

父・平十郎氏の作品の行方 表の「一」は、現在の所在地を、確認できなかった場合の表記である。中には、戦時中の金属供出や戦後の撤去で残念ながら失われた例もあると思われる。しかし、十平氏は、近隣からだけでなく、遠方からも鑄造の仕事を受けており、作品の分布は全国に及んだ。戦前から戦後にかけて日暮里生れの銅像が、各地に旅立って行ったと言えよう。

〈八代和香子〉

文化財の道標①

東京初空襲

東京大空襲の記憶

痕跡探し

「東京初空襲の地」史跡説明板 東尾久八丁目の区立熊野前保育園の前にある「東京初空襲の地」の史跡説明板（平成23年度設置）をご存知ですか。

今から77年前、昭和17年（一九四二）4月18日、アメリカ軍による本土初空襲があったことを後世に伝えるために設置したものです。東京・横須賀・名古屋・四日市・神戸などが攻撃されましたが、最初の爆撃地点が、化学工場・旭電化に近い尾久町八・九丁目（現在の尾久橋付近）で、被害は、死亡10人、重傷34人、軽傷14人、全焼43戸、全壊9戸、半焼1戸、半壊13戸に及ぶ状況でした。「尾久の初空襲」とも呼ばれています（『荒川ふるさと文化館だより』第28号参照）。



「東京初空襲の地」説明板を設置するに当たっては、「尾久の初空襲を忘れないコンサート」で初空襲を子どもたちに語

り伝える活動を行っていた、田村正彦前会長（故人）をはじめとする尾久橋町会のみなさんが収集された情報や史料等を参考にさせて頂いた頂きました。これは、地域で伝えてきた歴史をもっと広く知ってほしいという、地元のみなさんの熱い思いから実現したものです。あらかわの近代を語り継ぐ 東京初空襲だけでなく東京大空襲などを体験した方々が

お知らせ 日暮里史跡説明板の英訳版を設置しました！

区内各地には、地域の歴史や文化財について紹介する史跡説明板を設置しています。近年、二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、増加する外国人観光客のみなさんにも荒川区を知り、親しんでいただくため、英訳版の史跡説明板の設置を進めています。今年度までに、合計28ヶ所の設置が完了しました。



Fujimi-zaka Slope
The area of this slope was originally inside the precincts of Myōryū-ji Temple (Nichiren sect, later merged with Shushō-in Temple). Myōryū-ji Temple was known as Hanami-dera (Flower-viewing Temple). Thus the slope was also known as Hanami-zaka and/or Myōryū-ji-zaka. This is the last one of Fujimi-zaka slopes in the heart of Tokyo where we can view Mt. Fuji from the top of the slope until recently. It was selected as one of the Kanto Region Hundred Views of Mt. Fuji in 2005.

少なくなってきた今日、戦前・戦中・戦後の荒川区での暮らし、東京大空襲のお話を伺い、未来に伝える活動が各地で行われています。当館でも、貴重なその時代の日記・書簡・写真・生活用具等を、あらかわの近代を伝える語り部と捉え収集を行っています。ご存知の方は、荒川ふるさと文化館まで、ご一報ください。〈野尻かおる〉

まず設置したのは観光スポットの多い、日暮里地区です。従来散歩コースとして知られていましたが、ここ数年、ここを訪れる外国人が劇的に多くなりました。今後もし引き続き日暮里地区以外の地域にも英訳版の史跡説明板を設置していく予定です。英訳の説明板の一部には、文字だけでなく新たに写真も加えました。みなさんも日暮里地区に足を運ぶ際は、改めて説明板をご利用ください！ 〈高柳吟音〉

平成30年度
荒川区の文化財の一年・
荒川ふるさと文化館の一年

- 平成30年4月14日 あらわ座 実演・木版画彫(関岡裕介氏)／体験・手描友禅「季節の花をハンカチに描こう」(笠原以津子氏)
- 4月17日・24日・5月8日・15日 古文書に親しむ「初級編」(あらかわの職人)
- 4月28日～6月3日 速報!あらかわの文化財展&若手職人展
- 5月19日 あらわ座 実演・木版画摺(川嶋秀勝氏)／体験・木版画摺「木版画を摺ってみよう」(同前)
- 5月22日 指定文化財標柱「道灌石碑」建替え
- 5月23日 福井市立足羽中学校修学旅行対応
- 6月8日 荒川区文化財保護審議会(諮問)
- 6月23日 あらわ座 実演・裁鋏(石塚昭一郎氏)／体験・鍛金「鍛金の技でおりを作ろう」(福土豊二氏)
- 7月4日 七夕まつり(南千住図書館と共催)
- 7月6日～8日 第39回あらかわの伝統技術展「荒川総合スポーツセンター」
- 7月28日 夏休み子ども博物館「親子で楽しむ展示解説」
- 7月29日・8月2日 夏休み子ども博物館「勾玉作りにチャレンジ」(八代龍門先生)
- 8月4日 夏休み子ども博物館「あらかわ職人道場 提灯に文字をかこう!」(村田修一氏)
- 8月7日 夏休み子ども博物館「あらかわ職人道場 つまみかんざしの技でパッチンどめを作ろう!」(戸村絹代氏)
- 8月9日 夏休み子ども博物館「リトル芸員」(博物館のお仕事体験)
- 8月18日 夏休み子ども博物館「あらかわ職人道場 指物の技でペン立てを作ろう!」(井上健志氏)
- 8月22日 夏休み子ども博物館「俳句をつくろう」(倉澤節子先生・市橋洋子先生)
- 9月4日・10月2日・11月6日・12月4日 古文書に親しむ「中級編」(奥の細道)
- 9月11日 荒川区文化財保護審議会(合同部会調査)
- 9月22日 あらわ座 実演・指物(渡辺光氏)／体験・指物「指物の技でお箸を作ろう!」(同前)
- 10月11日～11月29日 学校職人教室。荒川区伝統工芸技術保存会の職人を区内全24小学校に派遣
- 10月13日 あらわ座 実演・三味線(加藤金治氏)／体験・彫金「彫金の技でキーホルダーを作ろう」(田村尚子氏)
- 10月16日 『荒川ふるさと文化館だより』第40号刊行
- 10月21日 史跡めぐり&観月会「道灌ゆかりの日ぐらしの里めぐり」
- 11月27日 荒川区文化財保護審議会(有形部会調査)
- 11月3日～12月2日 企画展「ようこそ匠の町あらかわへーあらかわと職人の歴史世界part2ー」
- 11月10日 企画展記念講演会「伝統工芸の今」(講師・荒川区文化財保護審議会河合正朝会長)
- 11月18日 企画展ミニシンポジウム「伝統工芸技術の継承ー技・身体・空間ー」(講師・荒川区文化財保護審議会八木橋伸浩委員・土居浩委員・石塚昭一郎委員)
- 11月24日 あらわ座・企画展関連事業「ギャラリートーク&匠トーク」(講師・荒川区文化財保護審議会菓子満委員・中村泰士委員)
- 11月30日 企画展関連事業「工房探検ーまちの中の伝統工芸ー」(講師・荒川区文化財保護審議会伊藤裕久副会長)
- 12月15日 あらわ座 実演・木版画摺(松崎啓三郎氏)／体験・木版画摺「写楽の木版画を摺ろう」(松崎浩繁氏)
- 12月27日 荒川区文化財保護審議会(答申案)
- 平成31年1月19日～2月17日 館蔵資料展「道具が語る昭和の暮らし展PART.2」
- 1月19日 あらわ座 実演・漆塗(角光男氏)／体験・寄席文字「寄席文字を書いてみよう」(銘苅由佳氏)
- 1月24日 史跡説明板「美濃遠山氏の聖観音(南泉寺)」建替え、「仙光院と峡田小学校跡」撤去。日暮里地区説明板に英語版6本取付け
- 1月31日 荒川区文化財保護審議会(答申)
- 2月8日 平成30年度荒川区登録・指定文化財告示【指定・有形文化財(古文書) 本行寺文書(本行寺所蔵)、無形文化財(工芸技術) 鍛金(保持者・桶谷輝明氏)、登録・有形文化財(歴史資料)経王寺法華経御闍連資料(経王寺所蔵)、同(建造物) 荒川遊園煉瓦塀(荒川区所蔵)、無形文化財(工芸技術) 鍛金(保持者・長澤利久氏)】
- 2月15日～3月3日 雛人形の公開(南千住図書館と共催)
- 2月16日 あらわ座 実演・木版画彫(関岡裕介氏)／体験・のれん染「型友禅でランチョンマットを作ろう」(片山昭氏)
- 2月17日 平成30年度東西俳句相撲大会への選手派遣(第六日暮里小学校 澁谷春人・鈴木粋生さん、第三瑞光小学校 土屋かのん・大内柚葵さん)(大垣市総合福祉会館)
- 2月28日 伝統工芸技術記録映像「伝統に生きる 木版画摺・川嶋秀勝」完成
- 3月2日～4月14日 パネル展「句碑でたどる奥の細道の旅」
- 3月6日 荒川遊園煉瓦塀構造調査
- 3月9日 奥の細道矢立初めの地子ども俳句相撲大会(サンパール荒川)
- 3月16日 あらわ座 実演・犬張子(田中作典氏)／体験・衣裳着人形「衣裳着人形の技でカードケースを作ろう」(竹中温恵氏)
- 3月21日 荒川区文化遺産地域活性化推進事業運営員会主催講演会「山車人形の基礎知識3」開催(講師・水谷類先生・祭・山車人形・神話・稲田姫と素戔鳴命)、講師・滝口正哉先生「天下祭と山車人形」(熊坂長範・太鼓打人形)
- 3月29日 民俗芸能等記録ビデオ「諏方神社と江戸の里神楽松本社中」完成。『続あらかわ今昔ものがたり』『続あらかわ今昔ものがたり』『荒川ふるさと文化館だより』第41号刊行